

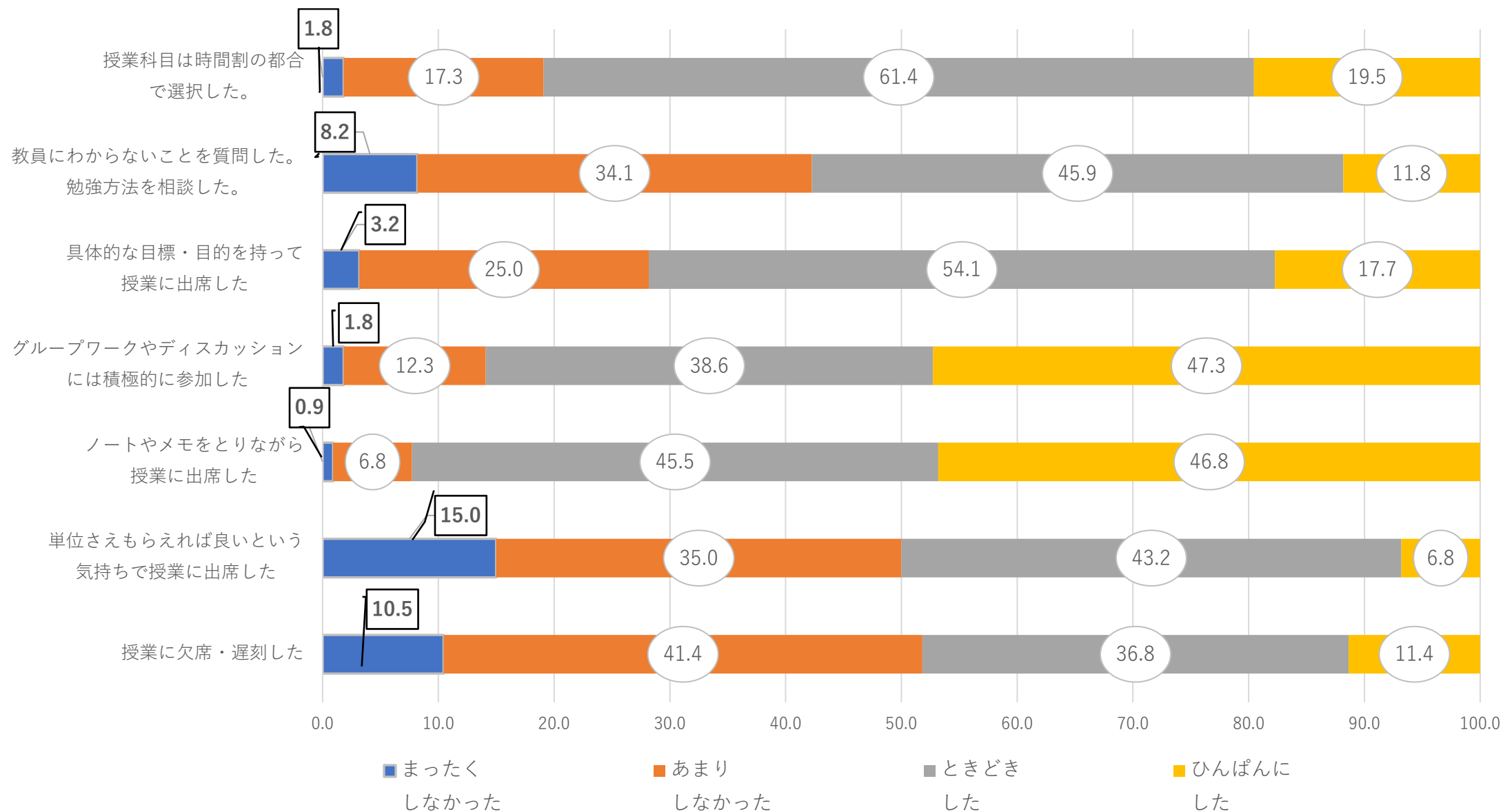
【総合政策学部】

2024. 卒業時アンケート

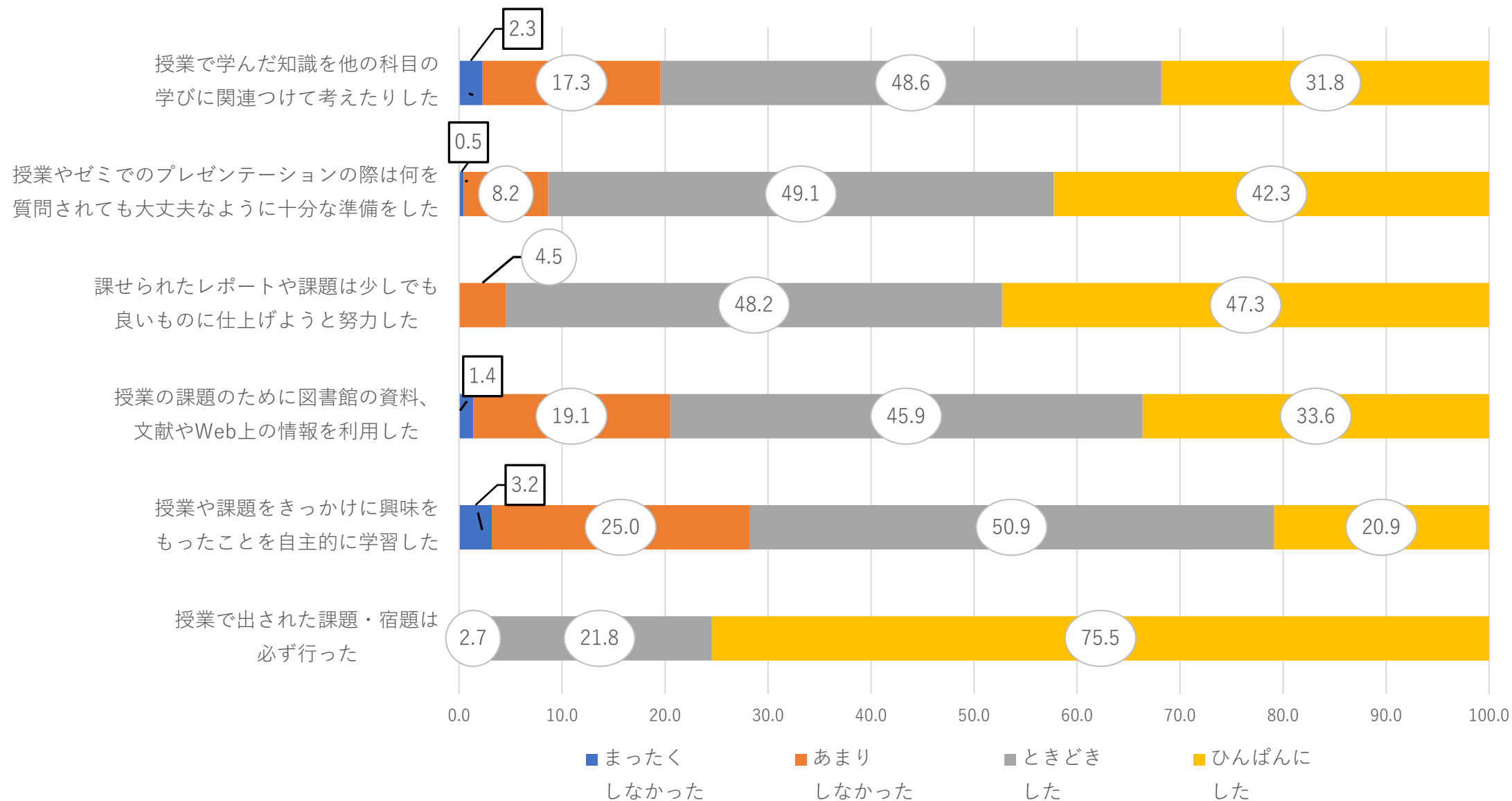
	n	%
男	119	54.1
女	101	45.9

	n	%
総合政策学科	146	66.4
企業経営学科	74	33.6

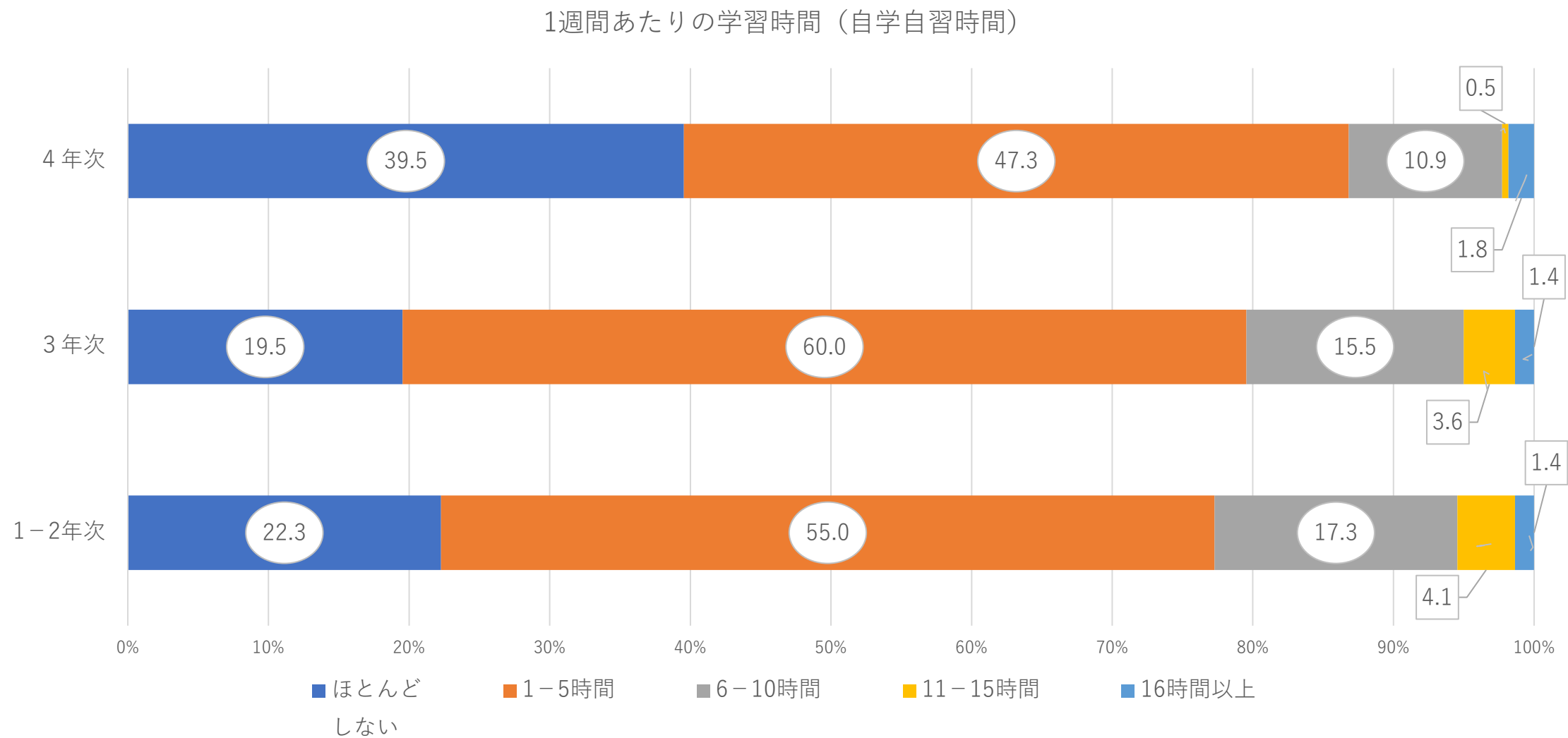
1. 授業の学習経験・学習態度



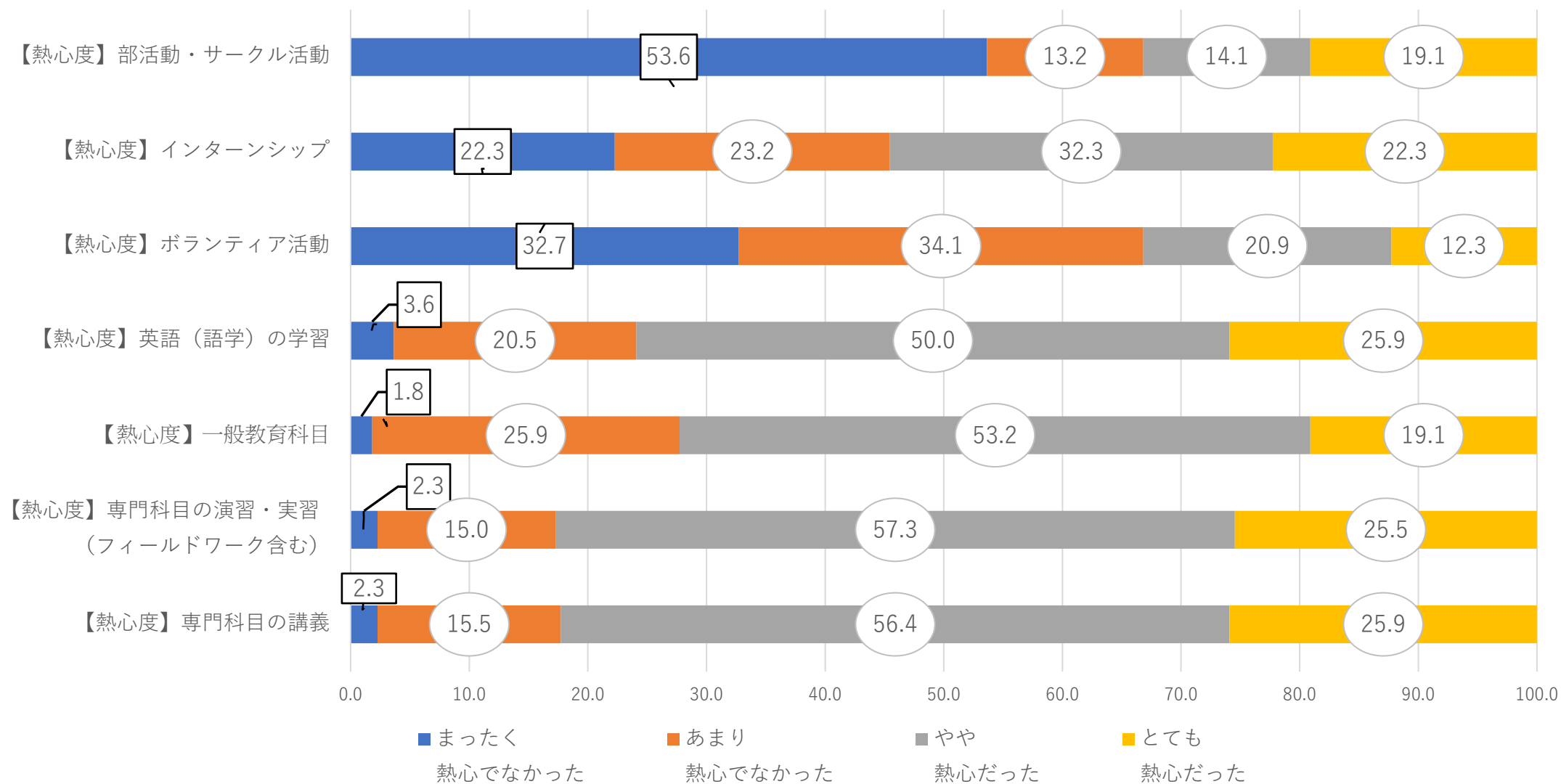
2. 【主体的・自律的】学習行動



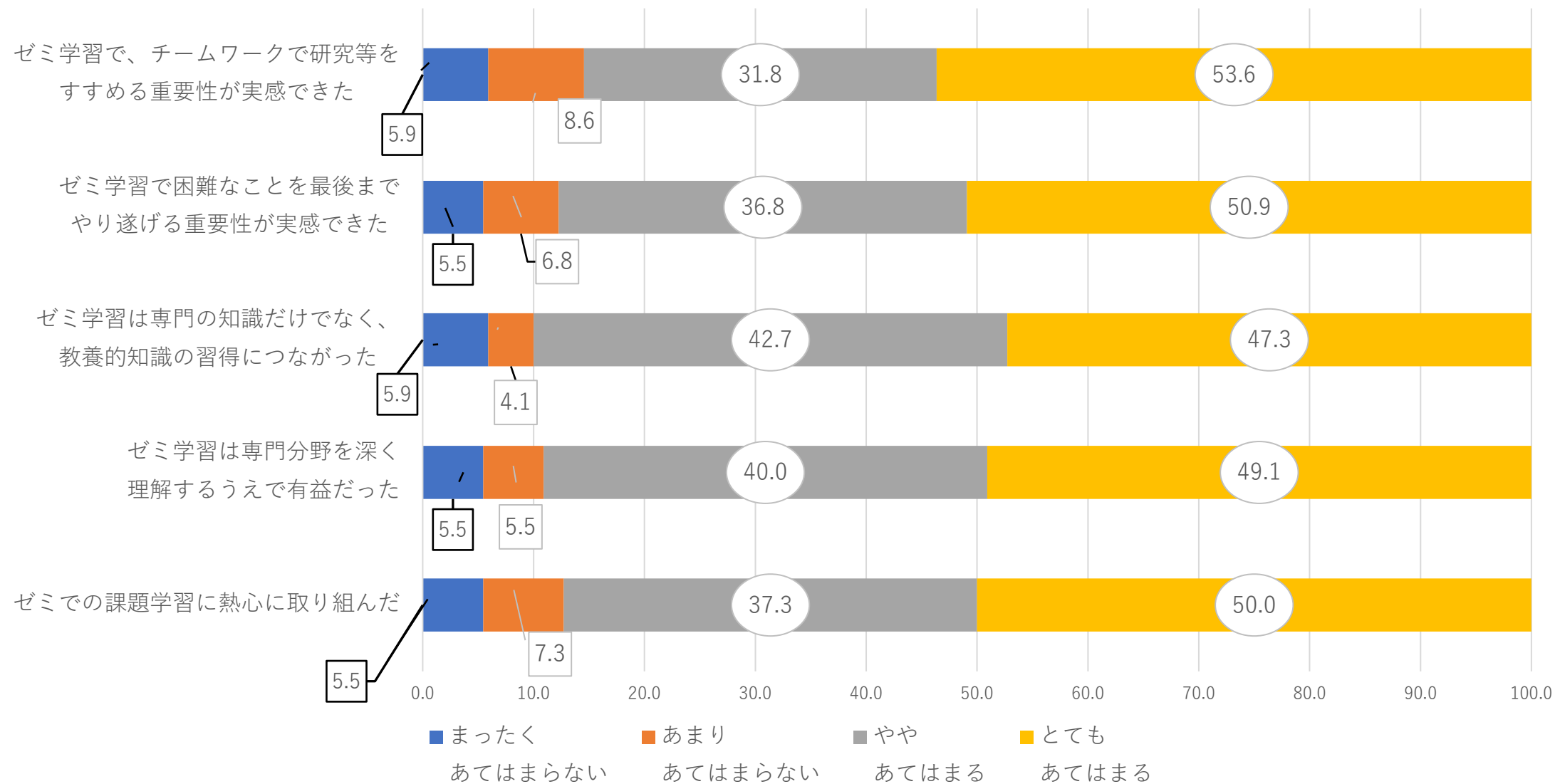
3. 1週間あたりの平均学習時間（自学自習時間）



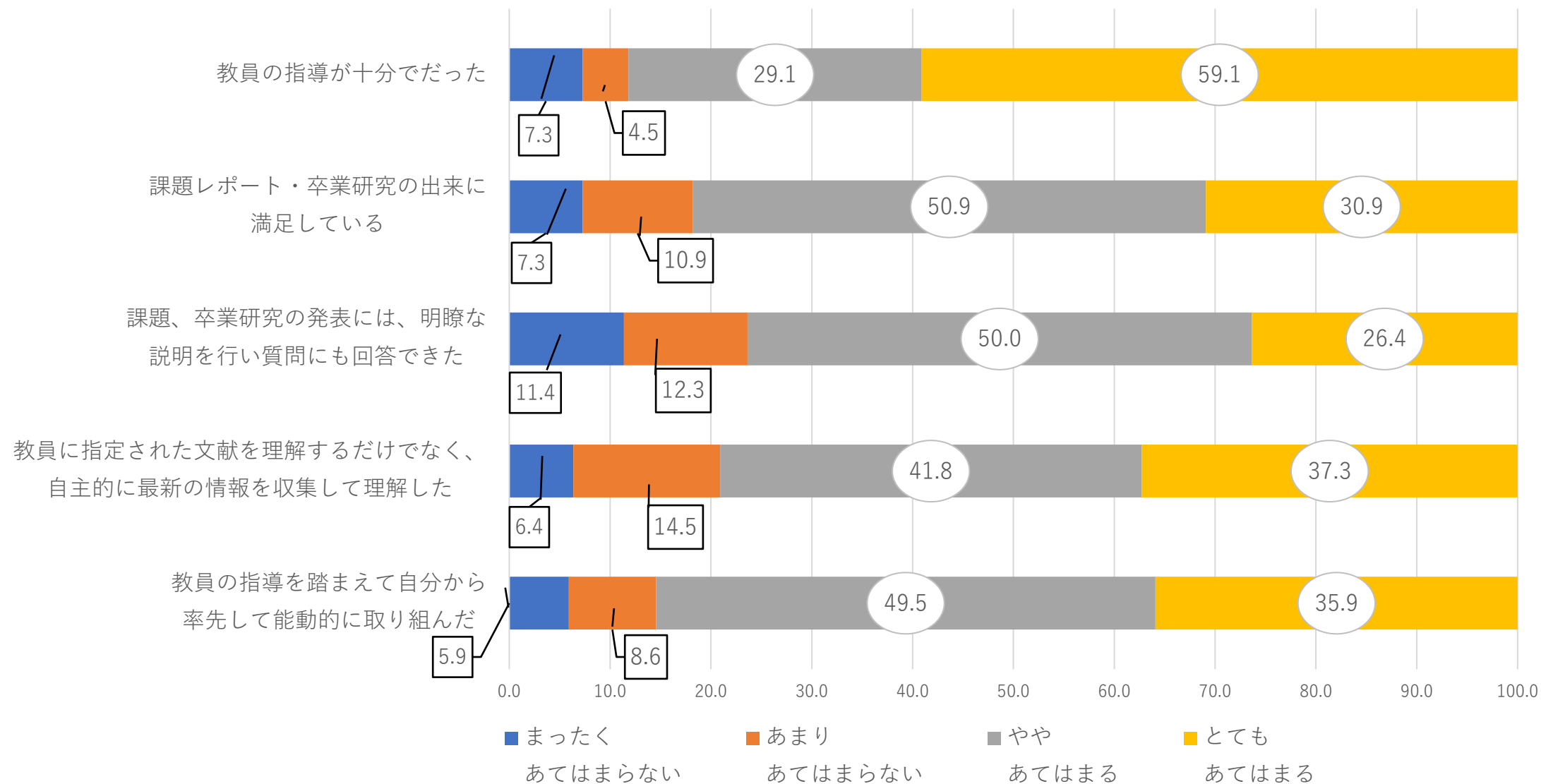
4. 【熱心度】 大学生活における意欲（学習意欲・正課外活動への意欲）



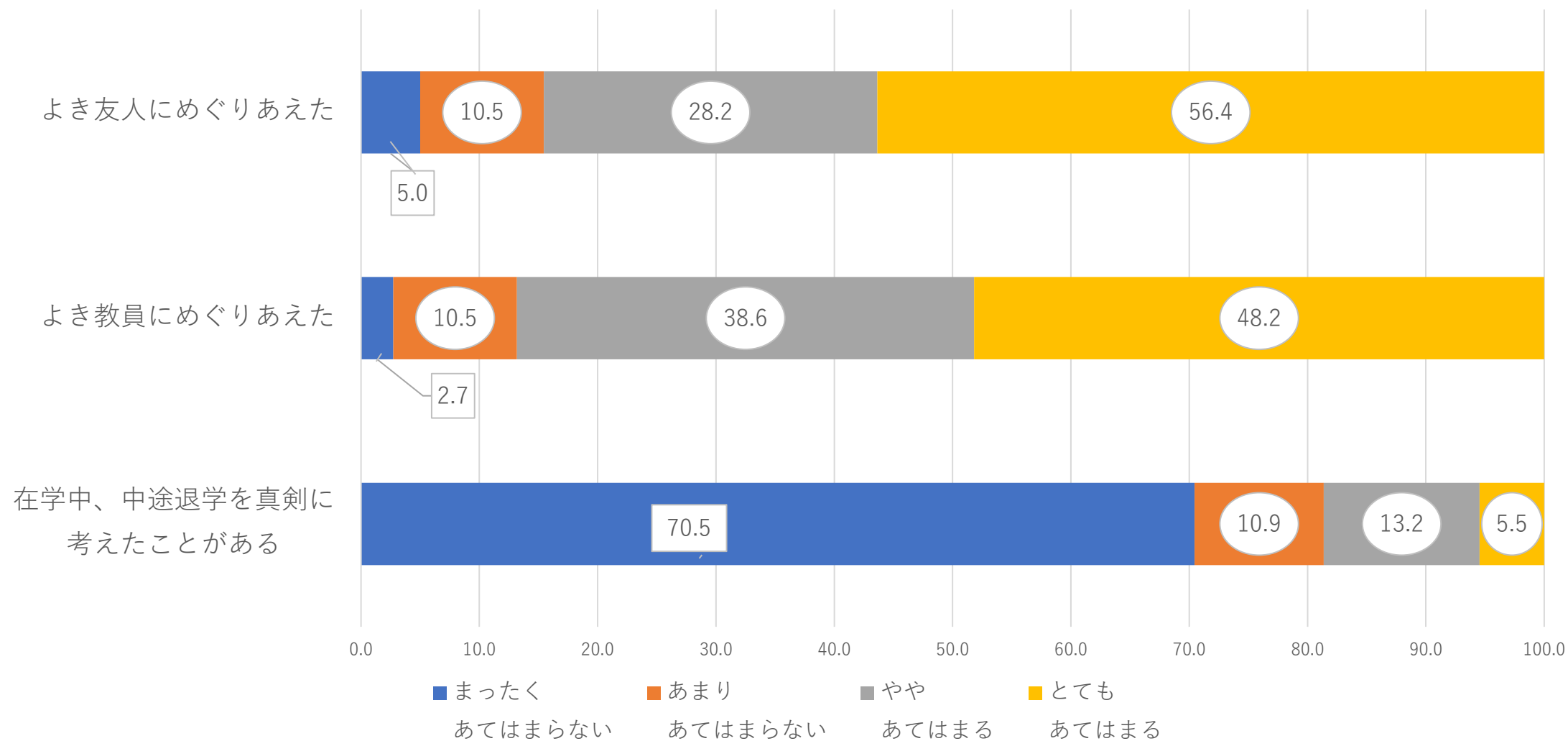
5. ゼミ学習 学習経験



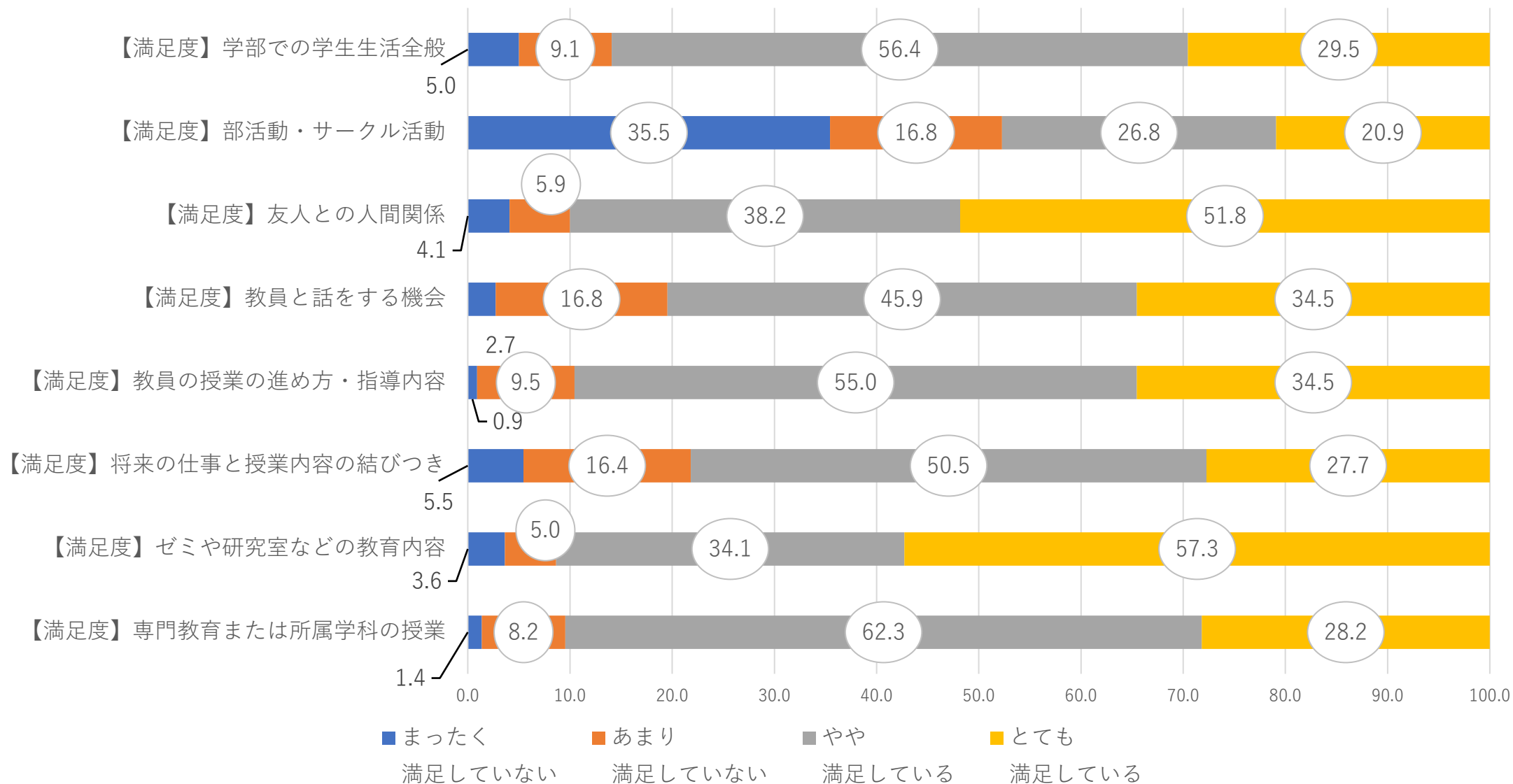
6. ゼミ学習 学習行動



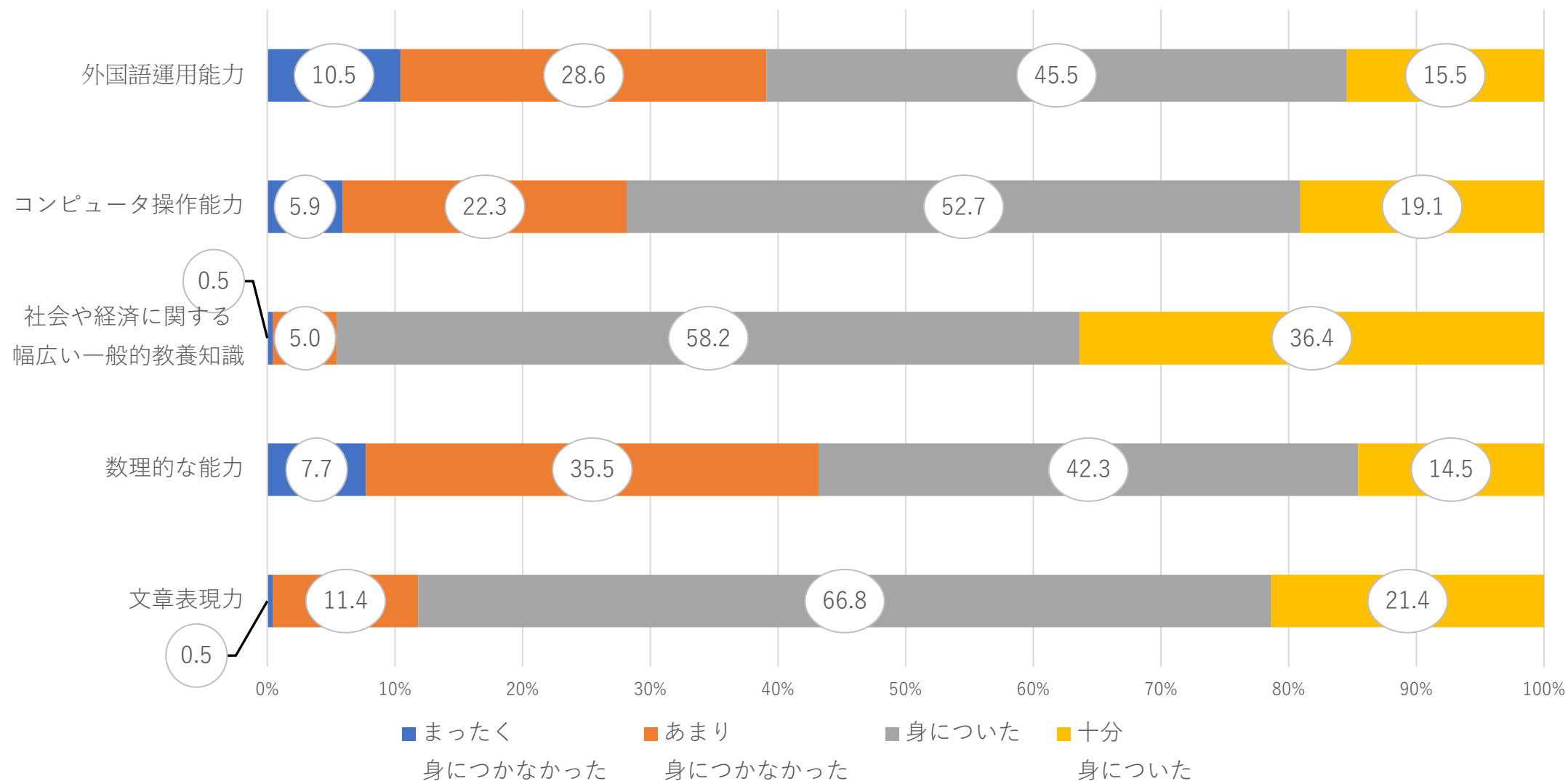
7. 人間関係等



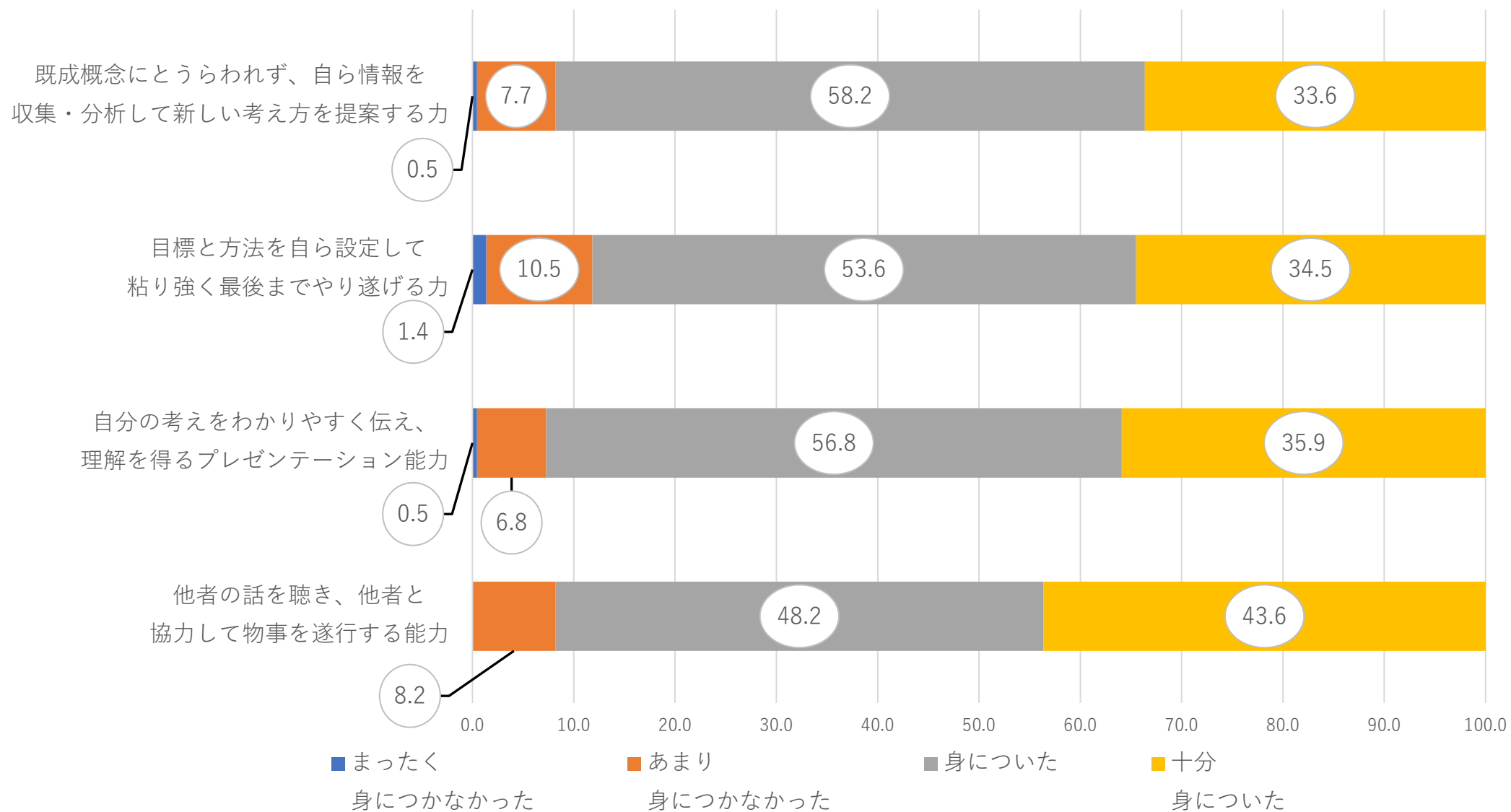
8. 大学生生活満足度



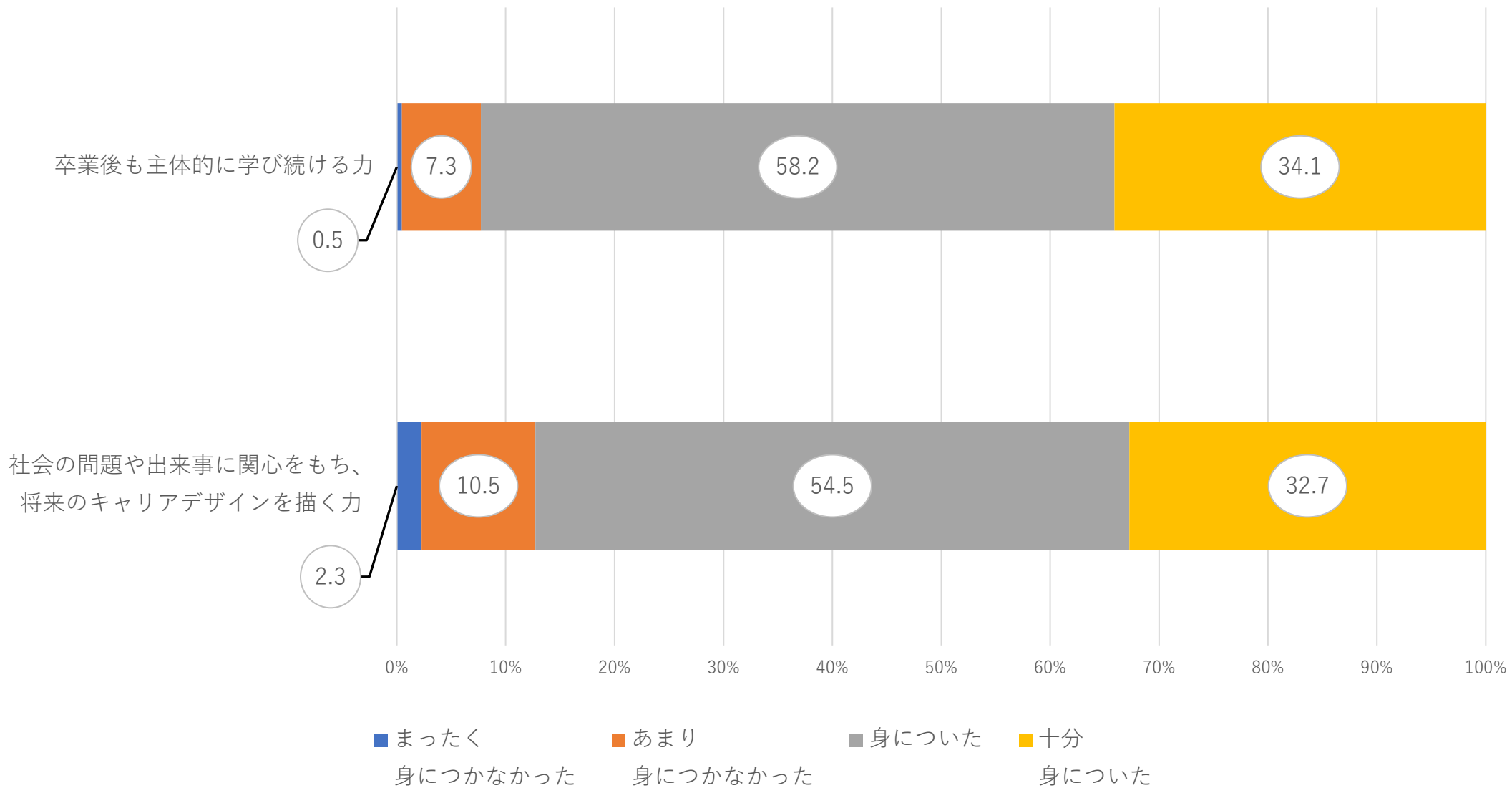
9. 知識・能力の獲得（１）（学士力：一般教養）



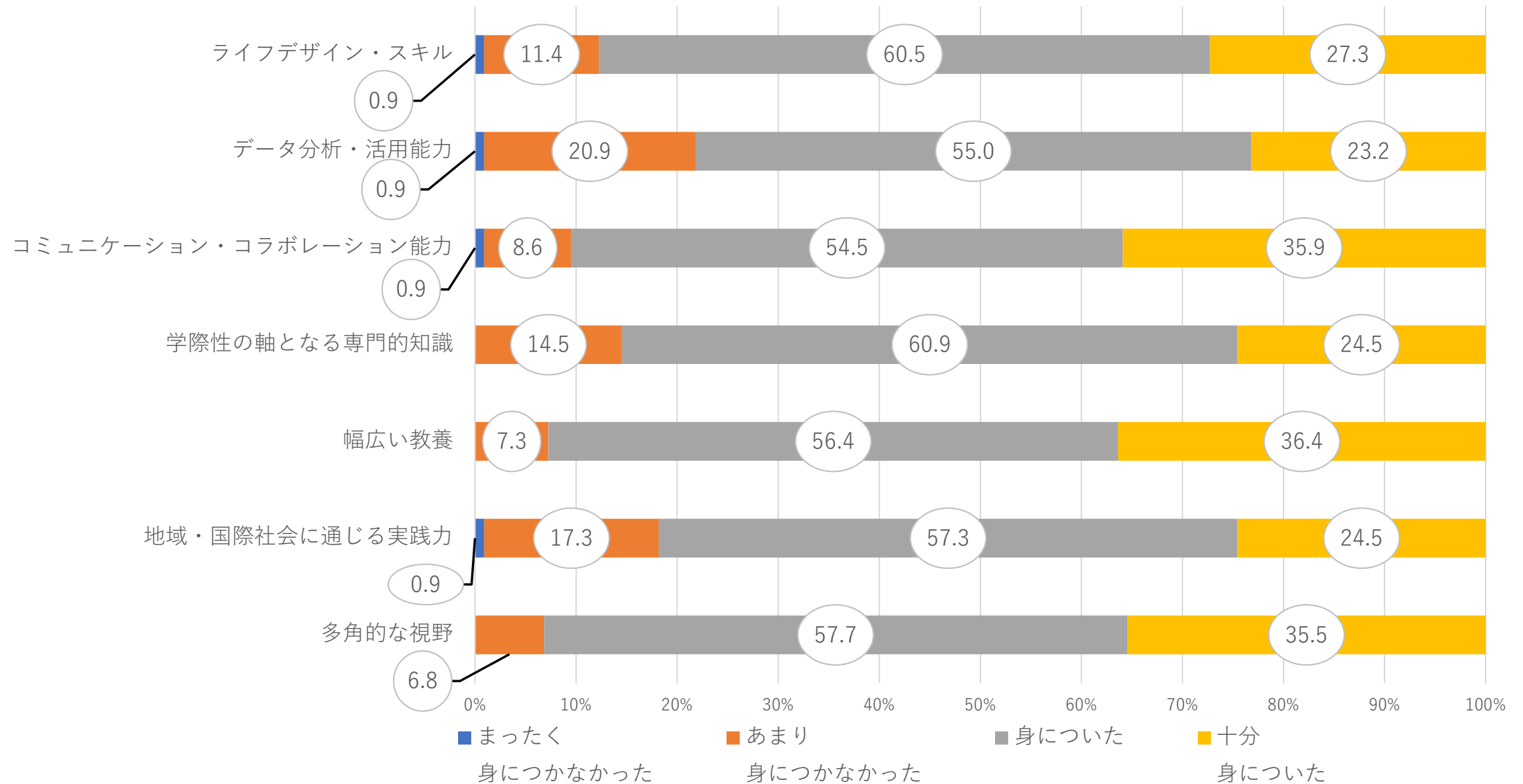
9. 知識・能力の獲得（2）（学士力：汎用的能力）



9. 知識・能力の獲得（3）（キャリア形成）



10. 【総合政策学部】ディプロマ・ポリシーに定められた能力の獲得



総評：総合政策学部

本年度の卒業生は、2016年度カリキュラムの最終学年となる（現在の4年生から、2022年度カリキュラムに移行している）。この学年からは、入学式が挙行されるなどコロナウイルス感染症拡大の影響も薄れた学年である。学生生活全般への満足度が89.5%（前年度【以下カッコ内同じ】75.6%）であったことから、コロナ禍から抜け出した経験を学びや学生生活の充実感として見出した学生が多かったように感じられる。

学生生活全般を通じた満足度が、85.9%（75.6%）となっているほか、90%（77.4%）が友人との人間関係に、91.4%（80.4%）がゼミや研究室の教育内容に満足している。ゼミ活動については、88.2%が教員の指導が十分だった、85.4%が教員の指導を踏まえて自分から率先して能動的に取り組んだと回答し、学生自身の達成感を感じる機会として機能していることが見て取れる。また、知識・能力の習得について、文章表現力が88.2%（74.8%）、プレゼンテーション能力が92.7%（76.1%）、コラボレーション力が91.8%（71.7%）であり、総じて上昇傾向にある。

学びや教育内容については、75.9%（54.8%）英語学習への意欲を持ち20ポイント上昇しているほか、専門講義科目への学習意欲は86.3%（73.9%）と10ポイント上昇、専門演習科目への学習意欲が82.8%（70.8%）と12ポイント上昇しているが、自主的な学びや探究心については、自学自習の時間が1週間に「0～5時間」、「ほとんどしない」を含め1～3年時は80%近く、4年生に至っては90%近くとなっているなど授業外の学習支援や動機づけが課題であると思料する。低年次からの指導が効果的であると捉え、今年度初年次教育の一環として行うプレゼミナールにおける個別指導の強化を端緒としたい。

ディプロマ・ポリシーの達成度については、地域・国際社会に通じる実践力が81.8%（67.8%）と14ポイント、ライフ・デザイン・スキルが87.8%（74.8%）と13ポイント、多角的な視野が93.2%（82.6%）と10.6ポイント上昇するなど、大幅な改善傾向にある。しかるにデータ・デザイン・プログラムを擁する学部でありながら、データ分析・活用能力が78.2%であるのは、やや物足りない。コンピュータ操作能力も71.8%（62.2%）と必ずしも高くはない。コンピュータ・リテラシーは、大学における学習活動の基盤となるものであり、情報リテラシーA・Bおよび情報社会論の教育課程見直しを進めていきたい。